

山口神社(和歌山市谷)にて



山口王子跡から山口神社

絵と文・熱田親憲

題字・熱田秦華

さらに街道を進み、
修験道の役小角の祠
のある墓地の角を曲が

って参道を進むと、田
園の中にぼつりと立つ
山口神社の鳥居が奥の

森に導いてくれた。本
殿は熊野本宮大社を小
型にした風格を持ち、
祭神は戦いの神として

知られ、坂上田村麻呂
も蝦夷征伐の戦勝祈願
をしたという。鳥居近
くの小高い丘の桜の木

「お菊寺」として親し
た後藤家の菩提寺で
615年、紀州山口

を大坂城へ送ったお菊
は父・喜内から大坂城
に密書を届けるよう言
われ、男装で大坂へ。

無事密書を届けて返
書を持ったお菊は、激
戦中の樫井川を泳いで
渡ろうとして大事な返
書を落とし、運悪く浅
野側の兵に拾われ、樫
井川の合戦は豊臣側の

紀州の玄関口に立つ

の下で田園風景に魅せ
られて昼食のお弁当を
とった。

また、お菊の悲恋を知
り「遺徳」をしるぶこ
とになった。

村の代官・山口喜内の
嫡男・兵内に嫁いだ。

族は全員、紀の川の田
井ノ瀬川原で斬罪とな
った。後藤家に身を隠
していたお菊は捕らえ
られたが、釈放された。

大阪面では昨年10月か
ら、毎日新聞和歌山面
で掲載中の「熊野古道
みちくさ記」の大坂府
内を通る回について再
掲してきました。今回
で終了します。

徳川家の山口御殿跡
が近くの山口小学校内
にあると聞き、訪ねて
驚いた。校章が葵の御
紋なのだ。さらにその

お菊の母・こよは関
白・豊臣秀次の側室と
なったが、文禄4(15
95)年、謀反の疑いで

夏の間が勃発。紀伊国
主の浅野家は徳川に、
山口一族は後藤、淡輪
氏とともに豊臣につく
決意をした。夫・兵内

え、不本意なミスで一

「スモスヤ小町の墓
に草鞋添え 秦華